

# 今年度の事業計画について

2024.7.24 第4回河内長野市未来技術地域実装協議会

# 今年度の事業計画について

①遠隔診療

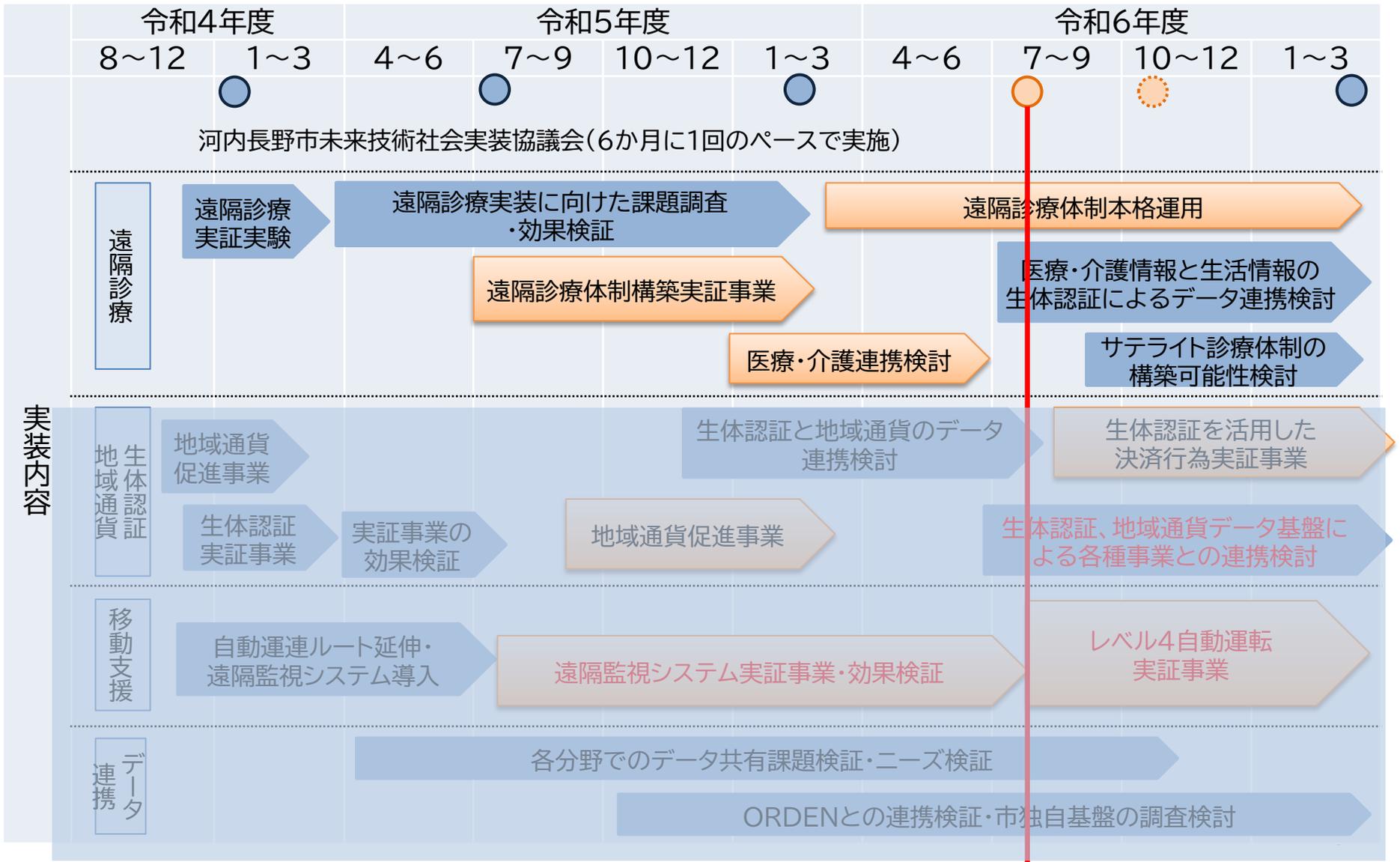
②地域通貨・生体認証

③自動運転

④データ連携

# 1. 遠隔診療スケジュール

## ■各事業の3年間事業スケジュールについて



# 1-1. これまでの経緯

## ■ 事業概要

データ連携基盤により、住民の健康状態や医療情報を一元管理し、遠隔医療・予防医療・救急医療のDXを図る。また、オンライン診療技術の向上に伴う実証事業を実施し、アフターコロナにおける遠隔診療の実装を図る。あわせて、規制緩和を見据えたサテライト診療の実証事業を実施。

## ■ これまでの取り組み

### 【令和3年度】

河内長野市医師会の参加のもと「遠隔診療の検討に向けた調整会議」を開催

### 【令和4年度】

- ①遠隔診療ニーズ確認のための関係主体ヒアリングの実施
- ②実証に向けた遠隔診療システムの調査比較検討の実施
- ③遠隔診療シミュレーションの実施

### 【令和5年度】

- ①遠隔診療システムの調達と協力医師への説明  
医師2名+医師会所有の計3セットを調達し、医師や訪問看護師向けに操作説明を実施
- ②DtoPwithN形式の実証実験の実施  
令和5年度8月より、実際の運用に近い形での実証実験を開始。約8カ月間で計16回の実証実験を行い、参加していただいた医師・訪問看護師・患者等に対してアンケートを行った。



遠隔診療システムの比較検討



操作説明の様子

# 1-2. 令和6年度実証:遠隔診療実証事業

## ■ 令和6年度の事業概要

本格運用に至った事例も出たものの、新たな課題も出てきたことから、令和5年度に引き続き、遠隔診療システムを使ったDtoPwithN形式の実証実験を継続して実施する。また、遠隔診療をより有効に機能させるため、医師会を中心とした遠隔診療実施体制の検討や、多職種連携などの補完的サービス導入の検討、市としての支援体制の検討等を行う。

令和5年度の実証にて確認された問題点や改善点に対して、新たな機器の試験的導入によりその有効性について検討を行う。

## ● 実証内容

- 患者宅に訪問看護師、訪問看護職員等がタブレット、遠隔聴診器を患者と医師とを接続したうえで遠隔診療を行う(DtoPwithN)
- 医師会地域連携室、訪問看護センターの協力のもと、DtoPwithN形式での遠隔診療実証を継続的に実施し、本格導入に向けた知見・経験を得るとともに、導入時に想定される課題を見つけ、解決策を検討する。



遠隔診療の様子(医師側)



## 1-2. 令和6年度実証:遠隔診療実証事業

---

- 遠隔診療の様子 ※聴診器の音も聞こえます。

# 令和6年度 河内長野市遠隔診療実証の様子

## 1-2. 令和6年度実証:遠隔診療実証事業

### ●新たな機器の試験的導入

- ・ 訪問看護師のオペレーションにおいて、現状はiPadのカメラ操作などが必要であるが、スマートグラスを活用することでハンズフリーの処置が可能かを検討する
- ・ 医師の診察に資する情報量を増やすため、日々のバイタルデータを取得可能な機器を活用する。



### ●訪問看護師の代替検討

- ・ DtoPwith非N形式での実証を試験的に実施し、訪問介護師や家族などの補助によって遠隔診療の実施が可能かの検証を行う。

### ●本格導入後の支援検討

- ・ 今後市内で遠隔診療を拡大していくための、医師・訪問看護センター等の事業者支援制度について検討する。

### ●令和5年実証の参加者からの意見

対象者	ご意見
医師	<ul style="list-style-type: none"><li>・遠隔診療では普段のご自宅での様子が見えるのが良い。</li><li>・遠隔診療の機器操作についても問題なく使えている。通信環境が安定してくれると良い。</li><li>・対面診療と比較しても、コミュニケーションについては特に問題ない。</li><li>・今後は拡大していくときにはスケジュール調整の部分が大変になると思われる。</li></ul>
訪問看護師	<ul style="list-style-type: none"><li>・利用者にとっては病院に行かなくても良いので通院の負担がかなり軽減されていると感じる。</li><li>・機器の操作についても特に問題ない。</li><li>・今後拡大していく時には、患者の近くで機器の操作を補助する人が必ず必要なので、それを誰が担っていくのかが問題となると思う。普段から顔見知りの訪問看護師が適任だが、スケジュール調整が難しいのではないかと。</li></ul>
患者	<ul style="list-style-type: none"><li>・通院するときはタクシーや家族の送迎に頼っているが、(遠隔診療だと)先生のところまで行かないでオンラインで話ができるのが良い。</li><li>・先生との会話はスムーズに行えており、特に不満はない。</li><li>・本格導入されるのであれば継続的に利用していきたい。</li></ul>

## 1-3. 実証における検討課題

---

### ■ 今後の実証における検討課題

#### ●効果的なサービス活用局面、活用方法の検討

- DtoPwith非N、DtoD等、医介連携・医師間連携といった取組展開における体制上の課題を検討
- 患者宅だけでなく、通所介護事業所や、公民館等公共施設におけるサテライト診療の実現に向けた課題の検討
- 遠隔診療サービス以外での多職種連携システムのデータ共有の仕組みについて検討

#### ●システム機能の検討

- 実際の利用局面において、システム改良について検討をおこなうとともに、血中酸素濃度や血液検査、心電図検査等、遠隔聴診器以外の遠隔診療機器の導入を検討

#### ●実装に向けた検討

- 在宅医療を補完する遠隔診療として、患者が看護師等といる場合のオンライン診療については一般的な介護保険に基づく訪問看護の一環として、オンライン診療を行うことを可能とすることが確認できた。⇒実装に向けた制度構築を検討
- 「DtoPwith非N」型の遠隔診療が実施できる体制を目指し、介護保険制度との整理、遠隔診療補助に対する報酬の妥当性、必要性などを検討

※(厚労省回答) 訪問介護士(ヘルパー)の機器接続については、訪問介護の生活援助(環境整備)の項目には当てはまらない。その他の項目においても当てはまるものがないため算定不可。

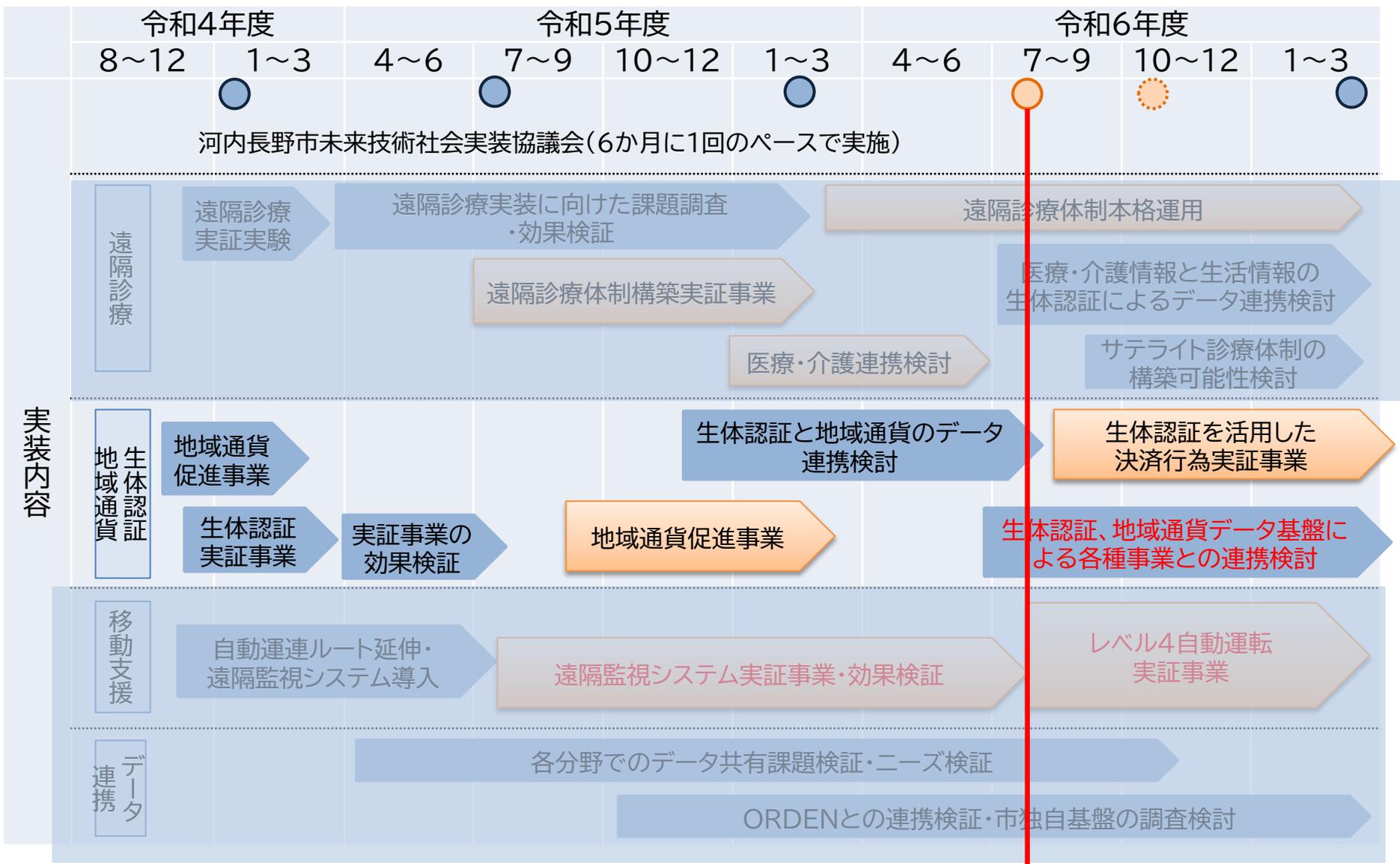
(理由) 訪問介護は身体介護以外が生活援助として算定を認められており、その生活援助に関して日常生活の援助が基本である。診療のための機器の接続は日常生活の範囲を超えるため。

# 今年度の事業計画について

- ①遠隔診療
- ②地域通貨・生体認証
- ③自動運転
- ④データ連携

### 3. 河内長野市未来技術地域実装協議会スケジュールについて

#### ■各事業の3年間事業スケジュール



## 2-1. これまでの経緯(地域通貨促進事業)

### ■ 事業概要

- ・愛称:モックルコイン
- ・利用システム:chiica(提供、株式会社トラストバンク)
- ・レート:1ポイント=1円
- ・発行形態:アプリ、カード
- ・利用可能店舗数:市内約237店舗(令和5年度終了時)

### ■ これまでの取組概要

令和2年度

観光振興施策としてchiicaおよびモックルコインの運用をスタート。

令和3年度

観光振興施策に加え、健康づくり・ボランティア促進・地域活動事業への参加者に対してもポイント付与

令和4年度

令和3年度に加え、さらに対象を拡大し、下記の事業への参加者に対してもポイント付与(既存の取り組みに対しては、一部要件や趣旨の変更あり)

- ・子育て支援:18歳以下の市民
- ・デジタル化の推進:市LINE・市商連公式LINE登録者、65歳以上の新規スマホ購入者
- ・地域経済活性・生活支援:プレミアム付きモックルコイン(5千円分のポイントを3千円で販売)、チャージボーナスキャンペーン(アプリ上でモックルコインをチャージされた方に、チャージ額の20%分のポイントを追加付与)

令和5年度

燃料価格の高騰等で影響を受けた市民生活の応援や地域経済活性化を図るため、全市民に、2千円分のモックルコインカードを送付。



## 2-1. これまでの経緯(令和5年度事業検討:生体認証と地域通貨の連携)

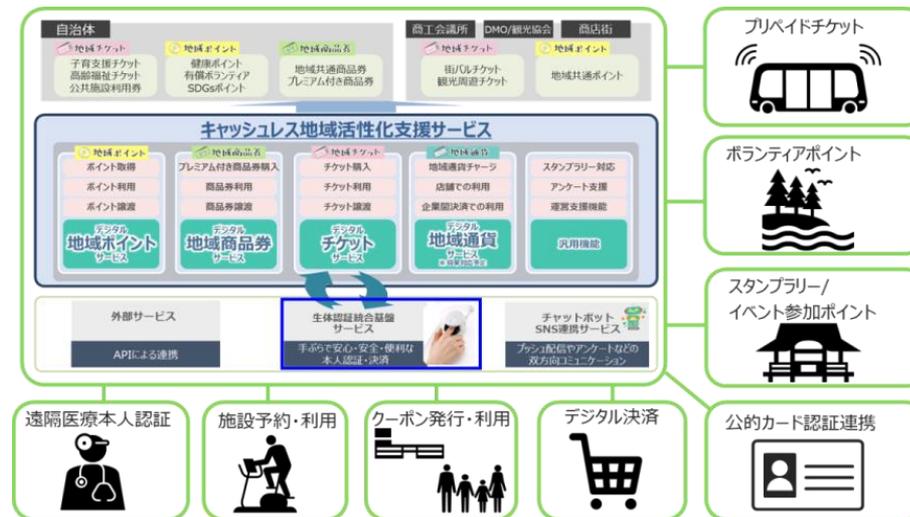
### ■ 地域通貨促進事業の課題

- ・市が確保した財源をもとに、一方向に流れる付与事業となっており、経済循環の体制が整っていない。
- ・デジタル化を推進するも、カード交換希望者も多く、決済行為のデジタルデバインド解消が重要。



### ■ 生体認証と地域通貨の連携

- ・地域通貨のみでなく、多くのサービスを共通して活用できるデータ基盤を活用することで、地域通貨にとどまらないサービス運用を実装し、サービス内の相互利用による経済循環を図る。
- ・当該サービスに生体認証を用いることで、スマートフォンを持っていない高齢者や小児でも使えるサービス体制を構築する。



### 「河内長野市生体認証地域通貨基盤サービス(仮)」

一生体認証(指静脈)で実現する誰一人取り残さない多目的利用地域活性化支援サービス

## 2-2. 令和6年度実証: 生体認証を活用したデジタル乗車券サービス実装事業

### ■活用補助金

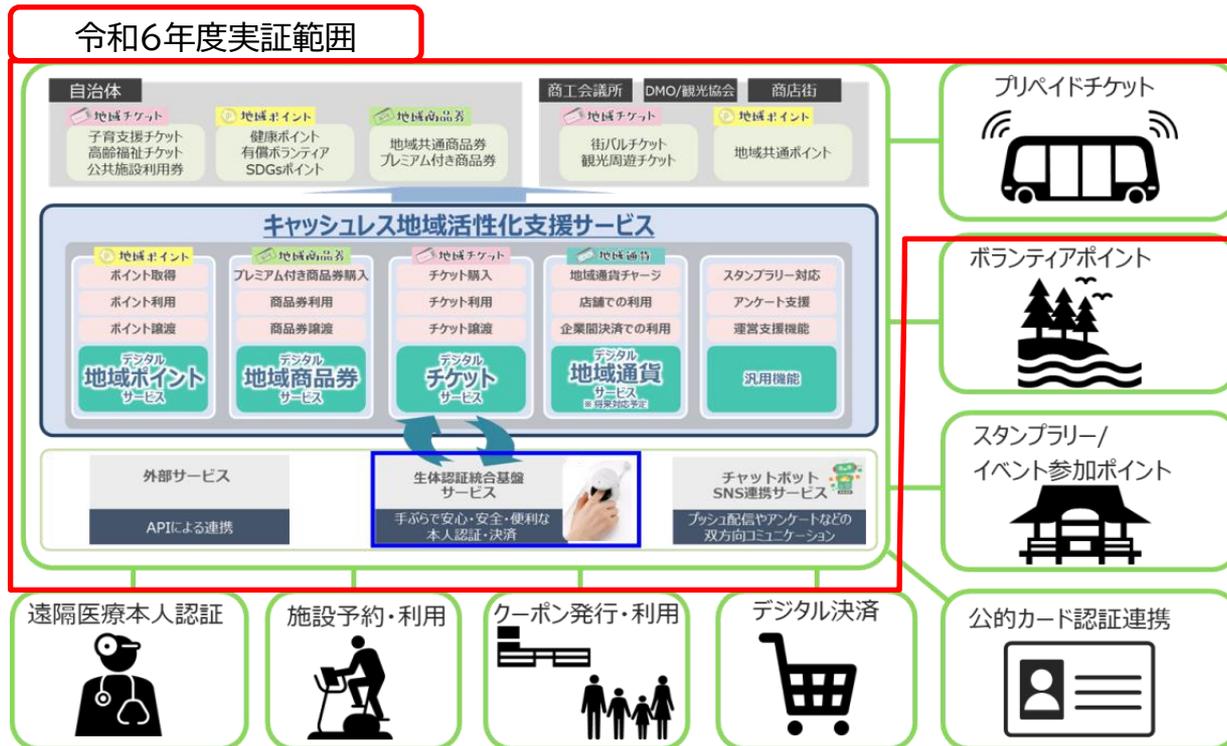
デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装TYPE1)【内閣府】

大阪府スマートシティ戦略推進補助金【大阪府】

### ■事業計画概要

・「生体認証(指静脈)」を本人認証の基盤として、データがつながり、住民の行動にもつながる市民向けICTサービスの拡充を図り、高齢者や年少者を含め、『誰一人取り残さない細やかな地域の仕組み』作りを目指す。

・ID/パスワードやスマホを必要としない、「生体認証(指静脈)」で、本人確認、地域電子通貨・チケット・ポイント・クーポンなど多目的に利用できる「河内長野市生体認証地域通貨基盤サービス(仮)」の提供に向けた実装の第一段として、生体認証によるデジタル乗車券運用事業を実施する。



## 2-2. 令和6年度実証: 生体認証を活用したデジタル乗車券サービス実装事業

### ■ 令和6年度 事業計画

狙い: 「河内長野市生体認証地域通貨基盤サービス」(仮)をベースに高齢者に手ぶらで安心・安全・便利な電子決済手段を提供し、QoL向上を促進する。又、現在現金回数券で運用している乗車運賃業務についてキャッシュレス化を図り、ボランティアによる金券出納等の運用業務の軽減を図る。(手ぶら生体認証による現金プリペイド決済は前例なし)

グリーンスローモビリティ「クルクル」で、生体認証を活用したデジタル乗車券の運用システムの構築を行い、将来の生体認証を活用した決済行為による生活利便性向上を目指し、利用者の金品登録への心理的ハードルや利便性、システムの確実性等を検証する。

#### 1. 本人(指静脈)登録&クルクル用チャージ

- (1) 適用場所: コノミヤ1F クルクル拠点
- (2) 機能: ①利用者登録: 指静脈情報+付帯情報  
②クルクル運賃現金チャージ:  
指静脈認証で指定額をクルクル運賃としてチャージ  
③指静脈認証でチャージ残高確認
- (3) 機器: タブレットPC(Windows)×1  
指静脈認証装置×1



#### 2. 「指先一本」クルクル用乗車チェックイン&運賃払い出し

- (1) 適用場所: クルクル(実車)2台
- (2) 機能: ①指静脈認証による本人確認(チェックイン)  
②クルクル運賃払い出し(支払い)  
③指静脈認証でチャージ残高確認
- (3) 機器: タブレットPC(Windows)×2  
指静脈認証装置×2  
モバイルバッテリー×2、モバイルWiFi機器×2



## 2-3.実証における検討課題

---

### ■ 実証における検討課題

#### ●システム機能の検討

- ・ 利用者の利便性を検証
- ・ 利用者の口座番号紐づけへの心理的ハードルを検証
- ・ 実際の利用局面において、地域スタッフでの決済行為が可能な、システム利用の簡便性の検証

⇒利用者向け、運営者向けアンケートを実施し検証

#### ●サービスの横展開、活用方法の検討

- ・ 「河内長野市生体認証地域通貨基盤サービス(仮)」のサービスに登録されている、他のサービス展開についても、各種事業との連携を視野に検討

⇒様々なサービスで活用することによりランニングコストのスケールメリットを生み出す。

ex)口座登録による「クルクル」キャッシュレス乗車

市のイベント事業でのポイント付与

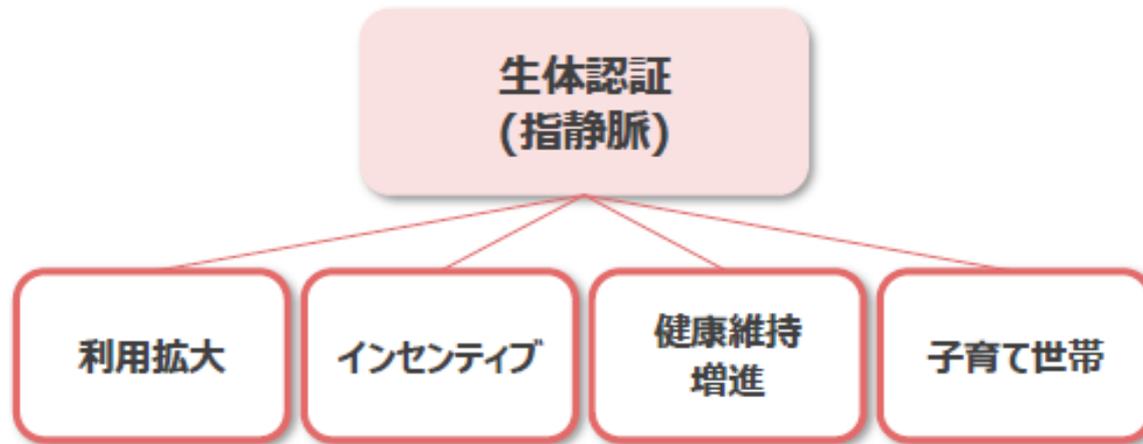
「クルクル」を始めとした各種ボランティアポイントの付与

プロジェクト参加店舗からの「オススメ」や簡単な情報発信による集客

## 2-4.将来像

### ■ 生体認証の定着に向け、四つの視点で事業展開を想定

#### 生体認証の定着に向けた観点



#### 4つの観点に関わる施策の推進で生体認証を定着

#### 利用拡大

- 横展開先のクルクルへの適用
- クルクル利用者層の拡大

#### インセンティブ

- ボランティアポイント活用
- 公園・スタジアムでの展開

#### 健康増進・子育て

- 健康活動記録の見える化
- 子育て支援給付への活用

**①クルクルデジタル乗車券**  
【施策①-1】スーパーイミヤで運行中のクルクルへの適用

- ・ コミヤテラスだけでなく、スーパーイミヤも生体認証(指静脈)利用可能として適用
- ・ 生体認証でのデジタル乗車券を利用できるシーンを増やし、利用者の活動エリアを拡大

**【施策①-2】クルクル利用者層の拡大**

- ・ クルクルを利用するターゲット層に応じた停車場所を拡大
- ・ 高齢者、子育て世帯など利用層増加ののびあいから、のびあいをより実現へ

**②クルクルボランティアポイント**  
「南花台クルクル」協力ボランティアに向けた、地域ポイント(インセンティブ)の付与

- ・ 貯めた地域ポイントは、指定店舗(スーパーイミヤ、コミヤテラス)での利用や粗品交換に利用
- ・ 地域ポイントの実績からボランティア表彰を実施し、ボランティアへの意欲向上

**③新設サッカースタジアムでの支払い・利用**  
新設サッカースタジアム・公園での市民向けイベント参加、ボランティア参加、施設利用

- 地域ポイント**
  - ・ スタジアム敷地内の清掃や環境維持協力等のボランティアに対するポイント付与
  - ・ 地域イベントの参加特権として付与
  - ・ 貯めたポイントは、指定店舗(スーパーイミヤ、コミヤテラス)で利用できるようにする
- 決済**
  - ・ サッカースタジアム内の売店やグッズ購入での手ぶら決済

**④高齢者向け施策**  
高齢者をターゲットした健康維持、QoL向上に向けた「活動記録の見える化」と「活動モチベーションの向上」

**⑤子育て向け施策**  
子育て支援(地域ポイントや給付)への活用

- ・ 子育て世帯へのクルクルポイント付与
- ・ 子育て用品購入サポート
- ⇒クルクル利用者拡大にも繋げる

※将来的には「PDI(顔認証)」の利用も可能となります。

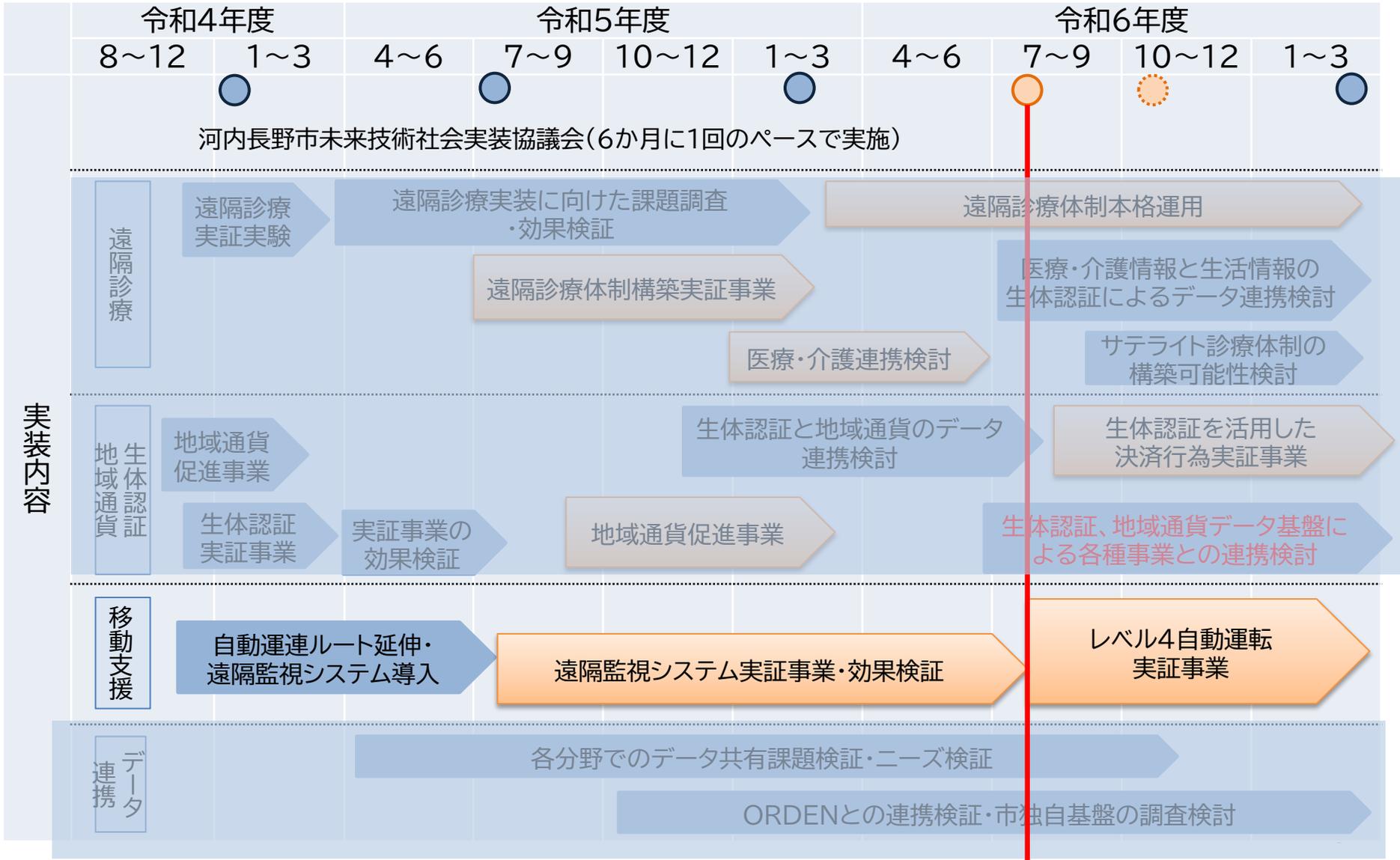
※日立システムズ様からの提供資料より抜粋

# 今年度の事業計画について

- ①遠隔診療
- ②地域通貨・生体認証
- ③自動運転
- ④データ連携

### 3. 自動運転による移動支援スケジュール

#### ■各事業の3年間事業スケジュールについて



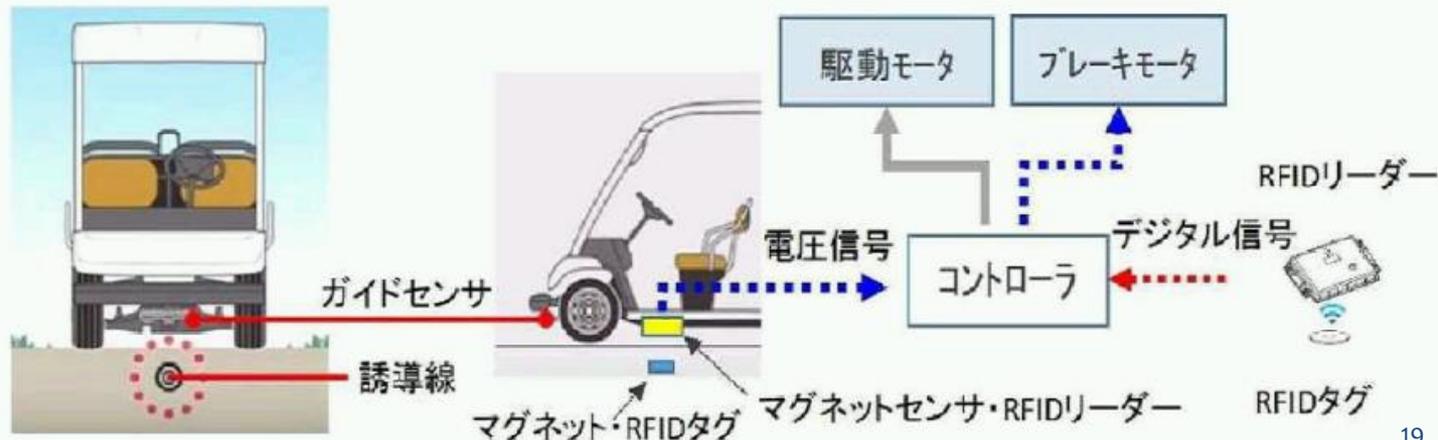
## 3-1.自動運転システムの概要

### ■自動運転システムの概要

- ・南花台地区に4つのルートを設定  
：総距離約9.8kmの電磁誘導線を敷設
- ・配電盤を操作することで、電磁誘導線に電流を流し、車両がそれを検出することで、電磁誘導線上を車両が走行
- ・交差点や乗降ポイント等における減速・加速・一時停止・指示器等の操作を敷設したタグにより自動化
- ・effi-visionシステムにより、障害物を検出し、車両を減速または停止することで衝突を防止



### ■電磁誘導式自動走行システム

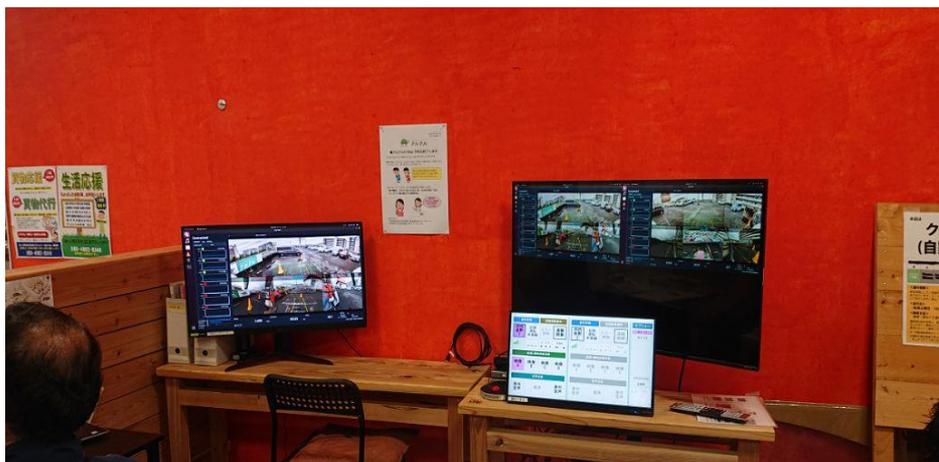


## 3-1.自動運転システムの概要(遠隔監視システム)

### ■遠隔監視システムの概要

- ・車内外に取り付けたカメラにより、車外360度の様子や、車内の乗客の様子を確認。
- ・運行時にモニターを起動し、稼働・通信状況を確認。
- ・稼働状況を見ながら、システムマニュアルの作成、運用方針を協議。
- ・稼働当初より、通信の不安定な状況があり、システム会社と連携しながら、機材・設定を調整。

車内カメラの設定調整や、受信機の位置変更などにより、地域に合わせたシステムの安定性向上を図っている。



## ■遠隔監視システムの映像（生活道路における走行状況）



## 3-2. 自動運転技術による移動支援サービス事業概要

### ■ 事業概要

#### (1) 運行期間

令和3年10月16日～ ※毎週 土曜日

#### (2) 運行ルート

右記、A・B・C・Dルート(総距離約9.8km)

※最高速度12km/h

### ■ 電磁誘導式自動走行システムの利点

- ・他の自動運転システムと比較し、インシャルコストおよびランニングコストが安価  
⇒他地域への横展開の可能性が高まる。移動支援事業の継続性に寄与
- ・地域住民にルートが意識されやすい  
⇒地域住民の意識醸成に寄与

### ■ 電磁誘導式自動走行システムの課題

- ・道路工事により電磁誘導線が断絶すると自動運転ができない。  
⇒電磁誘導線修繕工事が必要となり、事前に担当課との連携・地域住民への共有が必要
- ・ルートの変更が困難  
⇒一方通行のルートを設定するため、逆回りも困難



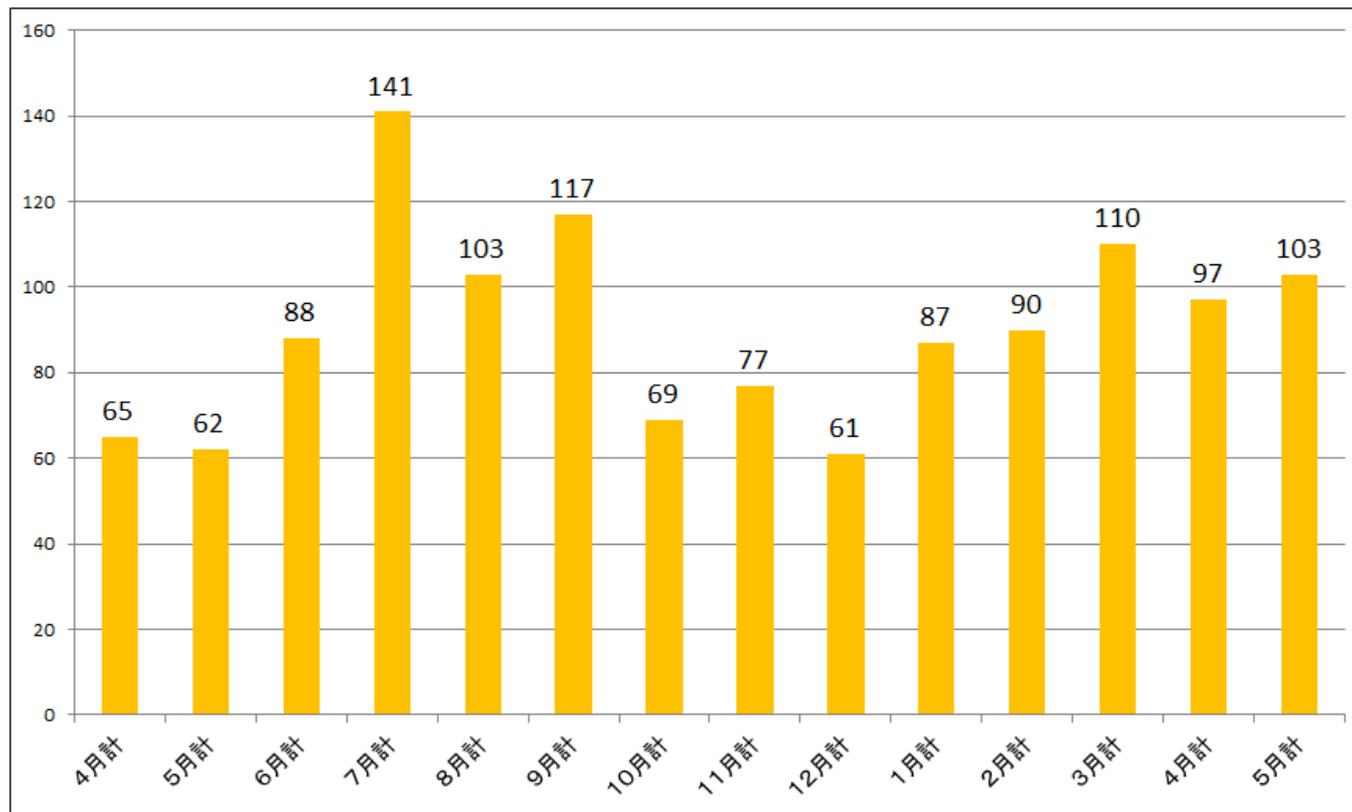
自動運転車両



### 3-3. 運行実績

#### 【運行実績】

R5年度 1,070人



#### 【R5年度実績のポイント】

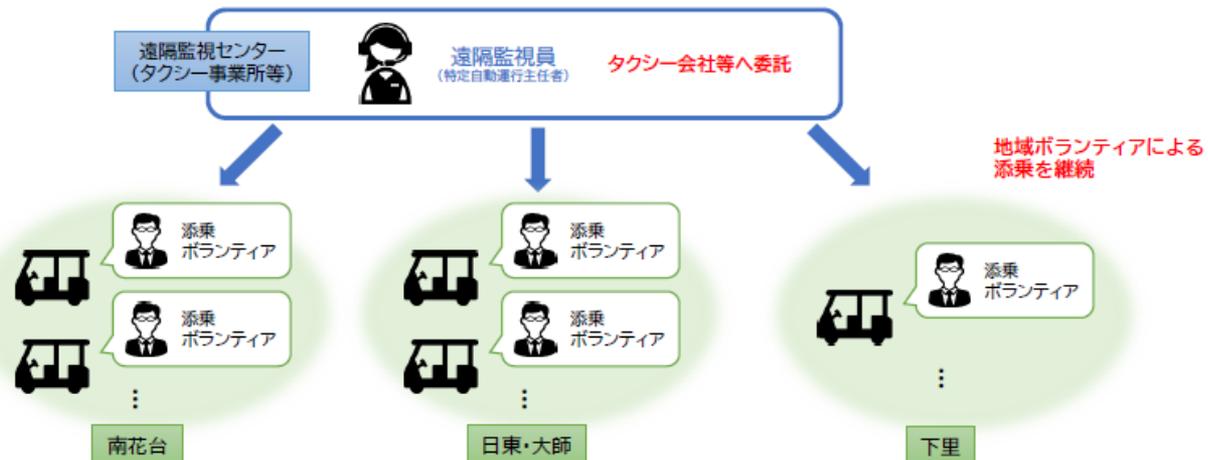
■利用者100人／月越え、リピーターも増加

■11月より、Cルート 9:30発を追加

### 3-4. 河内長野モビリティ「クルクル」 自動運転Lv4の目指す姿

#### ■「クルクル」自動運転Lv4の目指す姿

- 移動の不便の解消だけでなく、**地域住民のふれあいや助け合いの場**となるような運行
- レベル4自動運転により、地域住民主体による**「運行負担が軽い」「安全性が高い」「継続性を高める」運行モデル**を構築
- 乗客の安全確認や、自動運転システムの監視等の運行にかかわる部分はタクシー会社が担当  
1拠点において複数地域の移動支援を管理することで、運行にかかる人件費を最小限に抑え、乗降や買い物袋の運搬のお手伝いを、**地域ボランティアが安心して活躍できる場**とする
- 河内長野モデルとして、他の住宅街でも横展開できる運行モデルを構築し、どこの地域にも、応用し実現できる体制・ルールを構築する



### 3-5. 令和6年度実証:自動運転社会実装推進事業

■活用補助金 地域公共交通維持確保交付金(自動運転社会実装推進事業)【国土交通省】

#### ○複数地域を1拠点で同時に遠隔監視する体制の整備

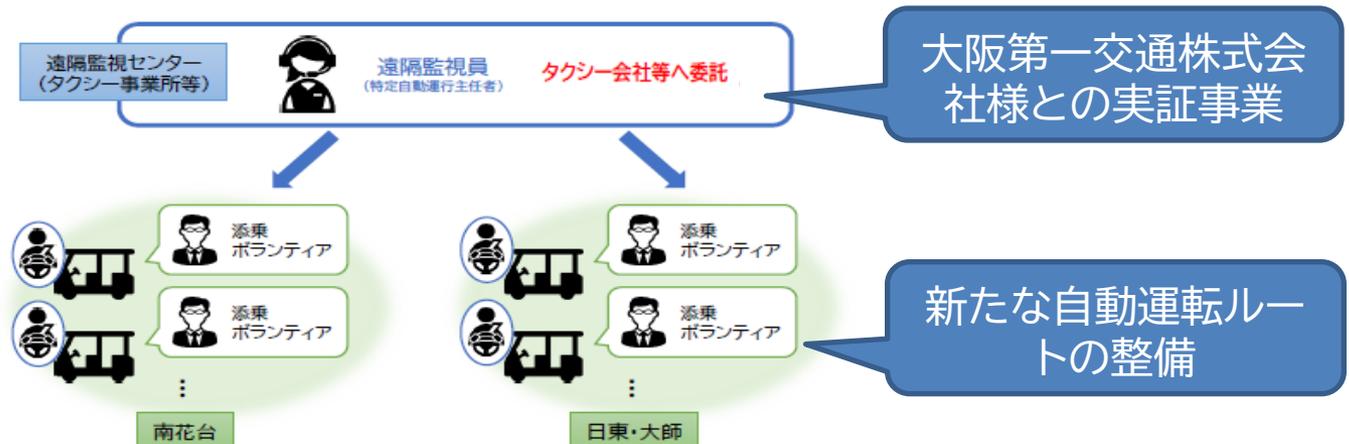
- 交通事業者・地域住民および地域事業者・運営主体(市)・メーカーの役割分担、体制構築
- 事故等非常時を想定した、各事業者の対応方法の整理、体制構築

#### ○日東・大師町での自動運転レベル2の整備とレベル4を見据えた運行体制の構築

- 電磁誘導方式による自動運転運行ルート設定およびリスクアセスメント
- 遠隔監視システムおよび電磁誘導線の導入
- 電磁誘導方式による自動運転車両1台購入
- 添乗ボランティアの募集、運行マニュアル作成(南花台を参考)

#### ○南花台での自動運転専用道及び注意喚起表示の整備検討協議

- 路面表示による自動運転専用道、注意喚起表示等の整備検討



# 3-6. 日東町・大師町運行概要(現在は手動による定時定路線運行)

## 【経緯】

### ○ヤマハ発動機実証実験

日東町・大師町にてヤマハ発動機が千葉大学、H2Oリテイリング、第一交通と連携し移動支援の実証実験実施

2022年7月25日 ~ 2023年7月22日

カート2台で約20便の運行

1日平均約70人の利用

⇒利用ニーズの高まりを確認し、楠翠台・楠台両自治会と移動支援実現に向けた話し合いを開始。

カートに乗って元気に!?! 笑顔に!?!  
お出かけ、買い物をもっと気軽に♪

大 師 町、日 東 町 で  
電動カートを使った実証実験が始まります!

事業名 電動カート利用による健康維持の効果検証

河内長野市では「住み慣れた街で住み続けられるまちづくり」の取り組みのひとつとして、「電動カートによる移動支援が、人とのふれあいを増やし健康長寿に繋がるのではないか」という効果検証のため、㈱ヤマハ発動機、千葉大学、イズミヤ㈱、㈱エイチ・ツー・オー商業開発と連携して実証実験を行います。

実証実験期間 2022年7月25日(月)~2023年1月21日(土)

運行曜日 月・水・金・土 ●該当曜日が祝日の場合も運行します。  
●悪天候等による運行中止時は、イズミヤ発着所に表示します。

運行時間 9時30分~12時、13時~16時

運行方法 電動カート2台で裏面の運行ルートを運行。

時刻表

時計回りルート			反時計回りルート		
時	イズミヤ発		時	イズミヤ発	
09		30	09		45
10	00	30	10	15	45
11	00	30	11	15	45
12			12		
13	00	30	13	15	45
14	00	30	14	15	45
15	00	30	15	15	
16			16		

●詳細は裏面の時刻表をご確認ください。

期間中は  
どなたでも  
無料でご乗車  
可能!

切り取り  
電動カートご乗車ポイントカード  
スタンプ3個で  
イズミヤのお買い物 5%OFF

実証実験期間中、1回のご乗車につきスタンプ1つを捺印します。スタンプを3つためるとイズミヤのお買い物5%OFF券としてご利用いただけます。お買い物の時にレジにてご提示ください。  
※当券の発行は2022年8月31日(水)にて終了します。

乗車する方へのお願い

- 65歳以上で乗車に必要なQRコードをお持ちの方はQRコードをドライバーにご提示ください。
- 小学生以下の乗車には保護者の同伴が必要です。

### 3-6. 日東町・大師町運行概要(現在は手動による定時定路線運行)

#### (1) 運行概要

令和5年12月1日～

地域の運営体制構築に先駆けて、イズミヤSC  
河内長野・社会福祉法人みなと寮のスタッフによる  
暫定運行を開始

#### (2) 運行ルート

日東町・大師町 右図のとおり

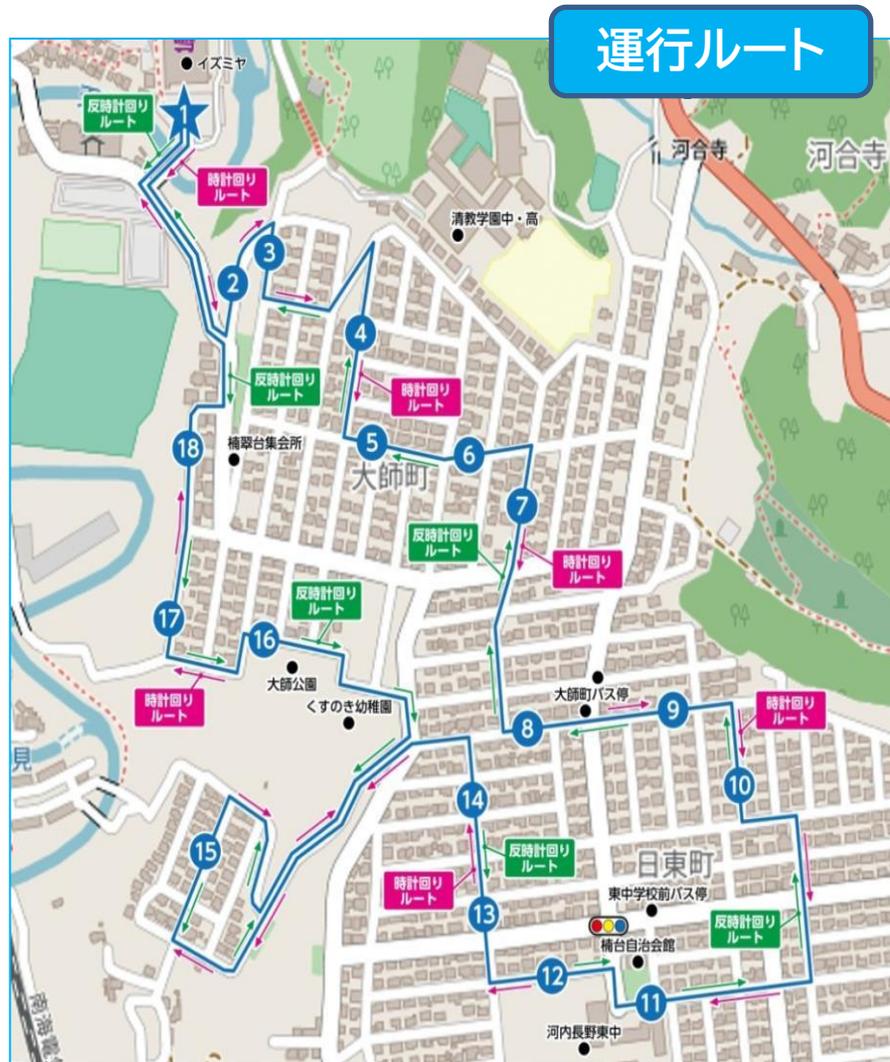
※時計回り、反時計回りの交互運行

#### (3) 運行スケジュール

■月曜日・金曜日

10時～12時 13時30分～15時30分

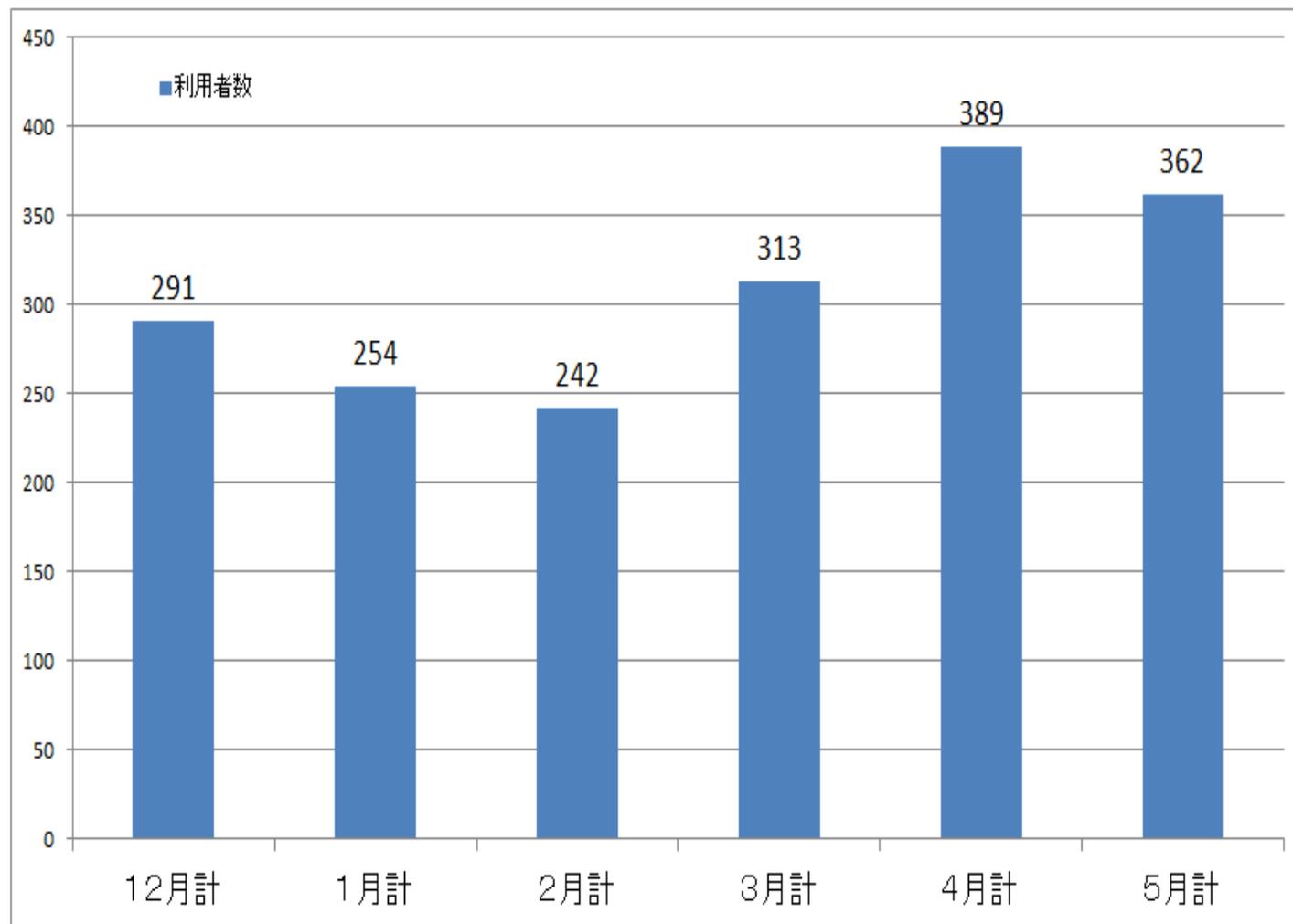
※30分毎に、時計回り、反時計回りに運行



## 3-7. 日東町・大師町運行実績

### ■令和5年12月～令和6年5月 実績

利用者数:1,851人 (⇒南花台モビリティ「クルクル」よりも高いニーズ)



# 3-8. 河内長野市レベル4モビリティ・地域コミュニティの設立

## 全都道府県での自動運転サービス展開に向けた取組

- 2025 年度を目途に全国で無人自動運転移動サービスを実現するためには、地元自治体や事業者と関係行政機関が一体となり、地域の取組に寄り添いながら支援していく環境を整備することが必要。
- このため、全都道府県での自動運転の事業化支援を目的として、「レベル4モビリティ・地域コミッティ(仮称)」を地元自治体と共同で設置する。

### 自動運転サービス展開に向けた課題

#### 1 地域の受容性醸成

過疎地や都市部といった様々な地域性がある中、地方公共団体の協力も得て、地域における受容性を高めることが必要。

#### 2 審査手続の透明性・公平性の確保

国の地方機関や地方行政機関において、事業者の技術水準を踏まえて、透明性と公平性を確保しつつ許可等の手続きを迅速に進めることが必要。



レベル4に向かって

### 「レベル4モビリティ・地域コミッティ(仮称)」の設置

- 「レベル4モビリティ・地域コミッティ(仮称)」を自治体と共同で設置し、地元自治体と事業者、関係行政機関等が綿密に連携することで、地域の受容性を醸成しつつ、審査手続の透明性・公平性の確保を図る。

#### <構成員(案)>

- 地元自治体
- 事業者
  - 運行主体
  - 車両提供主体
- 関係行政機関
  - ・ 地方運輸局
  - ・ 地方整備局
  - ・ 地方経済産業局
  - ・ 都道府県警察 等

⇒ 補助事業実施に合わせて、河内長野市レベル4モビリティ・地域コミッティを設立

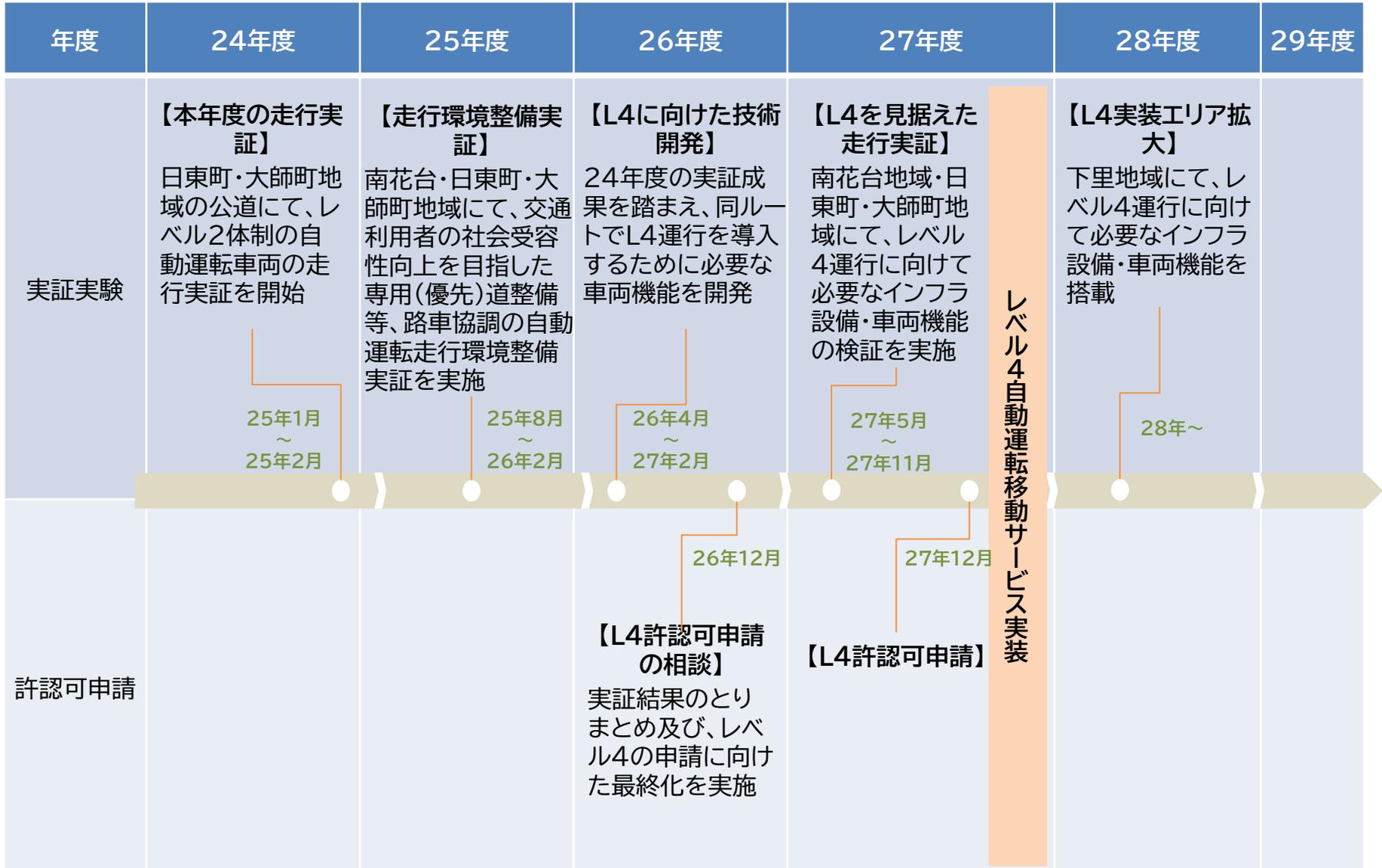
### 3-9. 河内長野市レベル4モビリティ・地域コミュニティ構成員

地域コミッティ構成員		組織名/企業名	委員		
			所属	役職	氏名
主宰者	地方自治体 運行主体	河内長野市	総合政策部	理事	谷ノ上 浩久
必須構 成員	地方運輸局	国土交通省近畿運輸局	自動車技術安全部技術課	課長	吉岡 譲
	地方運輸局	国土交通省近畿運輸局	交通政策部交通企画課	課長	大塚 保洋
	地方整備局	国土交通省近畿地方整備局	企画部広域計画課	課長	大國 喜郎
	地方経済産業局	経済産業省近畿経済産業局	地域経済部地域連携推進課	課長	黒木 啓良
	都道府県警察	大阪府警察本部	交通部交通総務課	課長補佐	西村 友晶
任意構 成員	自動運転車両提供 システムベンダー	ヤマハ発動機株式会社	技術・研究本部	フェロー	飯田 実
	運行支援事業者	大阪第一交通株式会社		代表取締役社長	芝辻 徹
	運行支援事業者	エイチ・ツー・オー リテイリング 株式会社	経営企画室 オープンイノベーション推進部	公園事業担当部長	原田 綾子
	所管警察	河内長野警察	交通課	課長	井上 敦裕
	都道府県	大阪府	都市整備部交通戦略室交通計 画課	課長	江藤 良介
	都道府県	大阪府	戦略推進室戦略企画課	課長	狩野 俊明
	地方自治体	河内長野市	都市づくり部都市計画課	課長	水上 和也
	地方自治体	河内長野市	都市づくり部道路課	課長	竹林 雄
地方自治体	河内長野市	福祉部地域福祉高齢課	課長	新井 聡	

### 3-10. 今年度実証詳細スケジュール

大項目	小項目	24年						25年		
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1.体制構築	キックオフ会議	7月5日開催								
2.実証実験準備	車両準備、改造等	→								
	運行ルート策定等		→							
	リスクアセスメント			→						
	地域への説明			→						
3.実証実験実施	道路占用等許認可取得		→							
	電磁誘導線敷設				→					
4.認可取得	準備運行/試乗						→			
	自動運転運行実施/検証							→		
5.結果報告	検証結果の取り纏め								→	
	報告書作成/報告会準備									→

# 3-11. レベル4自動運転実装へのロードマップ



※令和6年7月5日開催 河内長野市レベル4モビリティ・地域コミッティ説明資料より抜粋

## 3-12. 課題と対応方針

課題と対応方針は下記の通り ⇒地域コミッティにて課題対応を進めていく

#	項目	課題	対応方針	対応者	対応目処
1	技術面	レベル4自動運転技術の開発	路上駐車など障害物や他の交通参加者に対する確実な対応、交差点進入時の対向車・右左折車への対応を自動化	ヤマハ発動機株式会社	2026年度
2	技術面	道路環境により、見通しの悪い交差点等、一般車両との接近に注意を要する場面が多い。	車両側の監視システムに加え、スマートポール等、交差点における路車協調システムを活用	ヤマハ発動機株式会社、河内長野市、警察	2026年度
3	安全・保障面 社会受容面	交通量の多い路線における対応	追い越し等の安全対策が必要な箇所(特に南花台1号線のバイパス周辺)について、専用道の設置について検討する。	河内長野市、警察	2026年2月
4	安全・保障面 社会受容面	センターラインが設置されていない街路での追い越し等、一般車両との接近に注意を要する場面が多い。	路面塗装による運行ルートの設定および一般通行車両・歩行者等への周知をおこなう。	河内長野市、警察	2026年度
5	安全・保障面	L4自動運転車両運行時における、事故発生時の法的責任の整理	自動運転車両の製造者、所有者、特定自動運行主任者の法的責任を整理し、安全保障体制を構築する。	ヤマハ発動機株式会社、河内長野市、大阪第一交通株式会社	2026年度
6	経営面	経営自立化に向けた手法検討	L4自動運転に係る経費を整理し、収支状況に合わせて、利用料収入以外の収入確保や財源確保を図る	ヤマハ発動機株式会社、河内長野市、大阪第一交通株式会社	2026年度

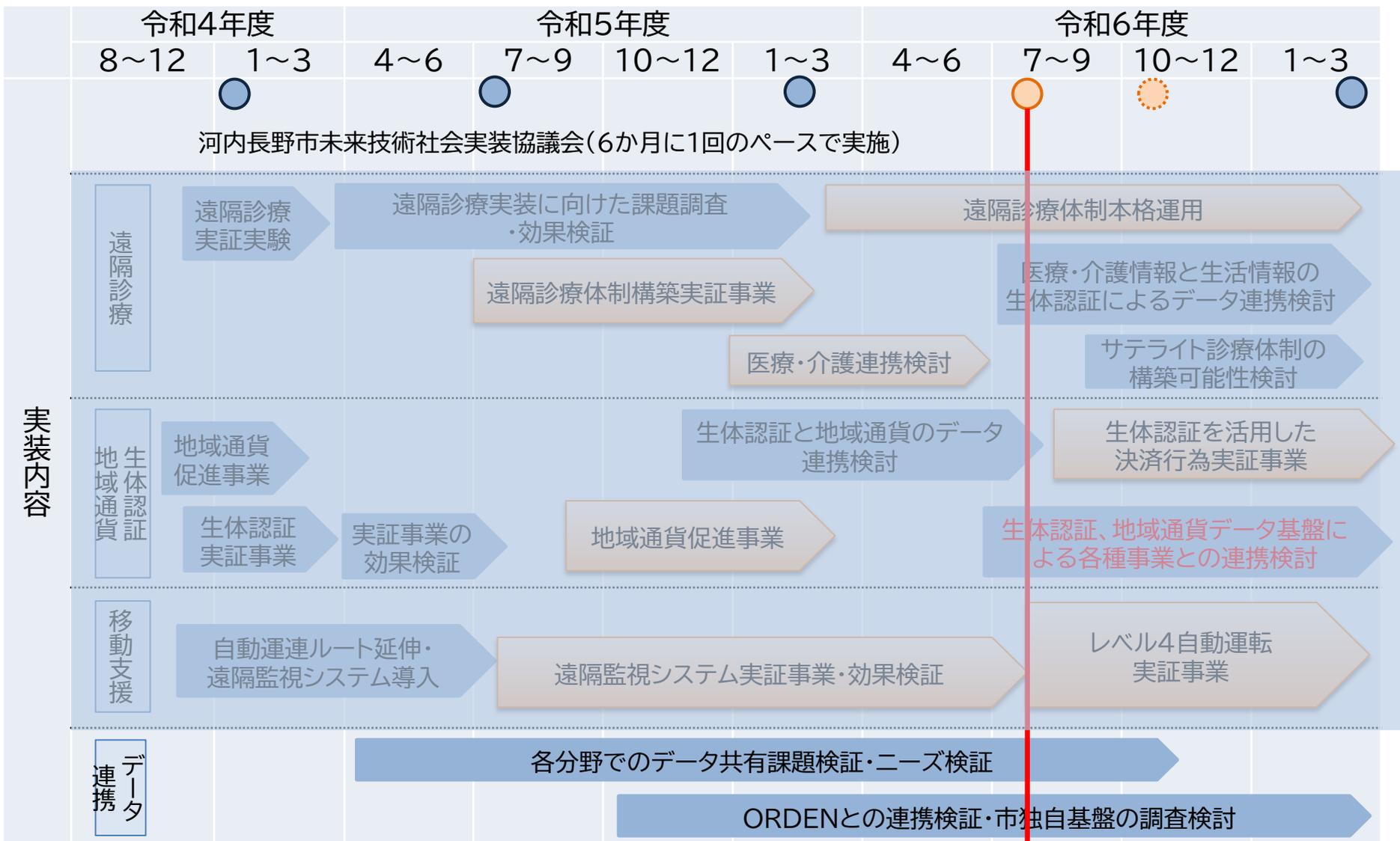
※令和6年7月5日開催 河内長野市レベル4モビリティ・地域コミッティ説明資料より抜粋

# 今年度の事業計画について

- ①遠隔診療
- ②地域通貨・生体認証
- ③自動運転
- ④データ連携

# 4. データ連携スケジュール

## ■各事業の3年間事業スケジュールについて



## 4-1. データ連携検討

---

### ■ 検討概要

#### 各分野でのデータ共有課題検証・ニーズ検証

##### (遠隔診療)

遠隔聴診器等導入にあたり活用している多機能搭載システムは、医療・介護連携や、公開APIとの連携による情報の授受が可能なものを活用。

遠隔聴診器の音源や動画も保存、共有が可能。

⇒センシティブな個人情報の取り扱いとなるため、関係者間の連携・共有に関する運用は継続検討が必要。

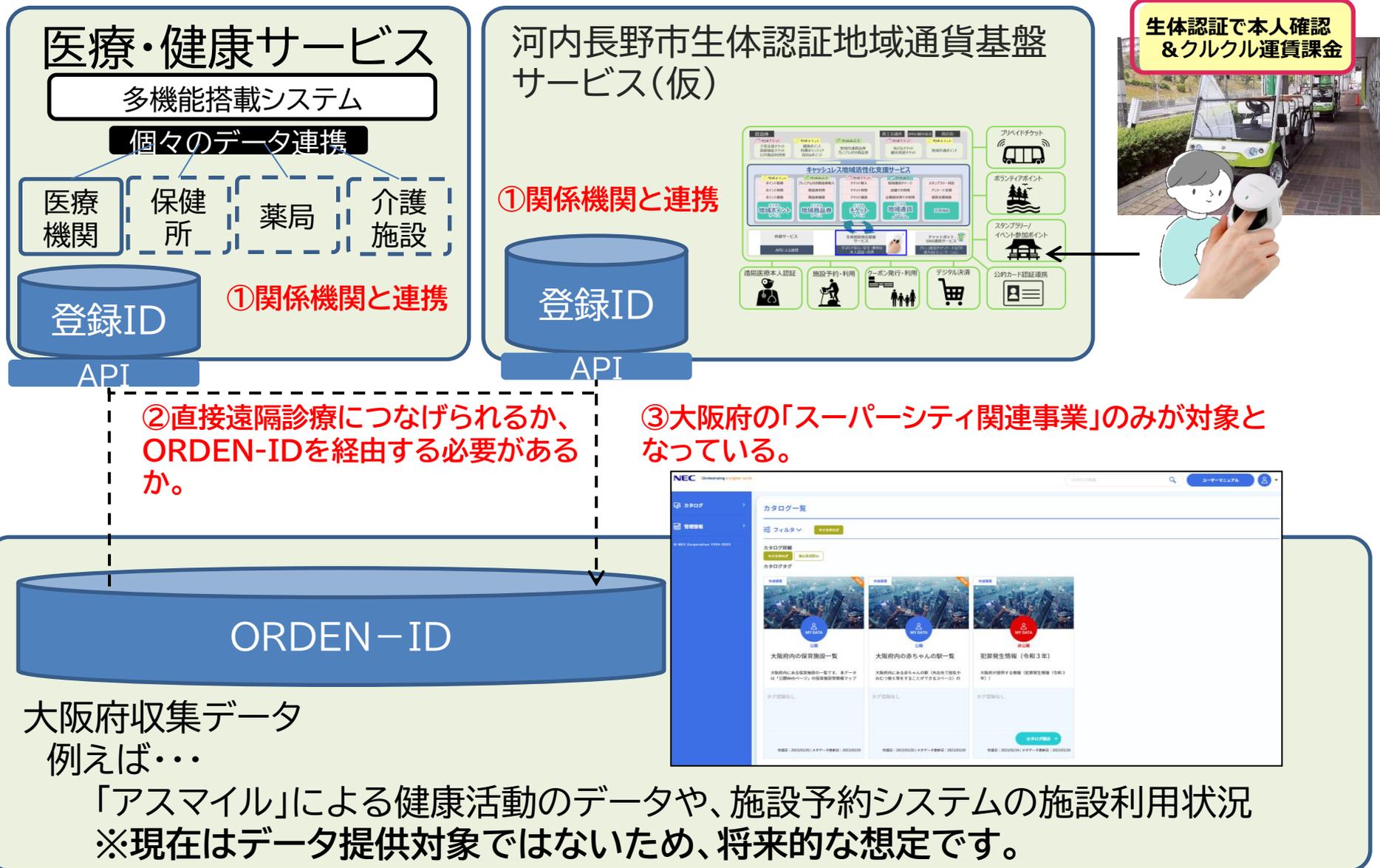
※基本的には、当初はデータを受け取る、一方向のみを想定し連携を検討。

(生体認証)※自動運転の利用データは、同決済システムで管理予定  
外部サービスとのAPI連携が可能なシステムを活用し、将来の展開を想定

#### ORDENとの連携検討

ORDEN事業概要の説明ヒアリングや勉強会に参加するとともに、先行実施状況を確認し、市の活用方法を庁内他部署とも協議し検討を継続

## 4-2. データ連携検討図(未来技術関連事業のみ)



## 4-3. データ連携の検討課題

---

### ■ 今後の実証における検討課題

#### ○制度上の検討

- ORDENとの連携可能性を検討
- 遠隔診療における多機能搭載システムにおいて、連携対象となる機関の抽出、連携可能性の検討
- 「河内長野市生体認証地域通貨基盤サービス(仮)」において、連携対象となる機関・サービスの抽出、連携可能性の検討
- 現在、大阪府の「スーパーシティ関連事業」のみの活用となっているため、本事業を関連事業として取り組めないかを検討

#### ○システム機能の検討

- ORDENとの連携可能性を検討
- 遠隔診療における多機能搭載システムにおいて、連携対象となるデータ、システムとの技術的課題を検証
- 「河内長野市生体認証地域通貨基盤サービス(仮)」において、連携対象となるデータ、システムとの技術的課題を検証

#### ○効果的なサービス活用局面、活用方法の検討

- 将来的にはORDEN-IDを通じた大阪府の提供データを活用した市民のQoL向上を目指すため、大阪府と連携し、ORDENが保有する他事業のデータと、本市取組との連携可能性調査

# 未来技術社会実装事業延長の 検討について

## 5. 2年延長の検討について

---

### ■ 各事業の課題の詳細顕在化(主要課題 抜粋)

#### ○遠隔診療

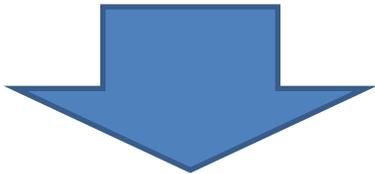
- ・ 「DtoPwith非N」型の遠隔診療が実施できる体制を目指し、介護保険制度との整理、遠隔診療補助に対する報酬の妥当性、必要性などを検討

#### ○生体認証・地域通貨

- ・ 新たなデータ基盤システムを活用し、様々なプロジェクトへの展開可能なサービスに対する効果性、継続性などを検討

#### ○自動運転

- ・ レベル4モビリティ・地域コミッティを組成し、より具体的なレベル4自動運転実装に向けた課題(専用レーン検討、安全保障対策、サービス関係者役割分担等)の整理検討



**社会実装に向けた伴走体制が必須**

### ■ 2年間の事業継続を検討

<継続申請のスケジュール想定>(参考;令和5年度)

○9月中旬 事務連絡(継続申請の希望確認;9月下旬×)

○10月上旬~11月上旬 ヒアリング

○12月下旬 審査結果通知

# 5. 2年延長の検討スケジュール(想定)

